別添資料

肢体不自由のある生徒の自己理解能力を高めるキャリア教育の実践

— 「自分発見プログラム」の開発を通して —

①特別活動授業構想

②教師が意図した対話の実際（一部）

広島県立西条特別支援学校

道岡 尚子

①特別活動授業構想

1 単元名 自分のことを見つめよう～「自分発見プログラム」～

2 単元について

○ 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領 特別活動 ホームルーム活動の2内容「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」に即して設定した。特別活動の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては、各特別支援学校を通じて、高等学校に準ずることとしている。しかし、身体障害者である生徒に特別活動の内容を指導するため、障害の状態・経験・生活年齢・学習状況を考慮した内容とする。この単元は「自分発見プログラム」の一部として位置付けられており、「自分発見プログラム」のはじめ、中、終わりに実施する。「自分発見プログラム」とは、中村(2011)の障害理解の視点を用いた教育活動における三つの場面設定(自己を見つめる、他者と関わる、障害の知見を得る)、生徒が自己への気付きを蓄積する「自分発見シート」の活用、及び自己理解を促す教師の意図的な対話や言葉掛けで構成されるものである。よって、本単元を実施する期間には、特別活動以外に三つの場面設定による教育活動が複数回設定されており、本単元は、そこでの気付きを繋げて自己理解を深める役割を果たしている。

第1時は、自己理解について考えるきっかけとし、「自分発見プログラム」で行うことの理解や見通しをもつことをねらいとする。まず、自分についてどの程度理解できているのかを可視化するため、自分の強みや弱みを記入する「自分イメージマップ」を作成する。さらに、作成した「自分イメージマップ」を共有することで、他者との比較や対話による気付きを増やしていく。教師も「自分イメージマップ」を作成して共有に加わることで、生徒に気付かせたい自己理解段階表の三つの項目を意識したものを作成する。共有の場面では、自己理解能力が肯定的な自己理解に基づいて高まることを踏まえて、「自分イメージマップ」に表出した否定的側面を、リフレーミング及び苦手なこと・短所の対応策を考えることで、肯定的に捉え直すことができるよう、意図的な対話を行う。

第2時は、「自分発見プログラム」前半の教育活動における気付きを振り返ることで自己理解を深めたり、「自分発見プログラム」後半への見通しをもったりすることをねらいとする。まず、前半に蓄積している「自分発見シート」を基に振り返りを発表させることで、別々に実施されていた教育活動の共通点や相違点に気付かせる。さらに、気付きが促されるよう教師は三つの場面を意識した意図的な対話を行ったり、他者の発表を聞く際は、他者の考えを想像させることにより他者と自分の考えを比較できるようにしたりする。次に「自分イメージマップ」(2回目)を作成する。直前に行った振り返りの発表での気付きを言語化できるよう、必要に応じて対話を行う。その後、1回目と2回目を比較することで自己理解の深まりに気付かせるとともに、「自分発見プログラム」後半への見通しをもたせる。

第3時は、自己理解について、「自分発見プログラム」を通してどのような気付きが得られ、それにより自己理解が深まったかについて理解し、それらが「自分発見プログラム」後の将来の生き方を考えるきっかけとなるようにすることをねらいとする。まず、第2時以降に蓄積している「自分発見シート」を基に振り返りを発表させる。次に「自分イメージマップ」(3回目)を作成する。直前に行った振り返りの発表での気付きを言語化できるよう、必要に

応じて対話を行う。その後、1回目、2回目及び3回目を比較することで自己理解の深まりに気付かせると共に、現時点での自己の生活上の課題を見付けさせる。最後に、見付けた課題にどのように向き合うかや解決策について話合う場面を設け、「自分発見プログラム」自体は終了するが、今後の人生においても自分を発見し続けることの大切さに気付かせる。

この単元を通して、各教科等の特質に応じたキャリア教育の取組を特別活動で繋ぎ、生徒の自己理解を深めることが期待できる。このことは、キャリア教育充実の要である特別活動の内容として意義がある。

○ 指導観

この単元で使用する「自分発見シート」「自分イメージマップ」は、書字に困難さがある生徒の実態を考え、PC入力ができるものとする。「自分発見シート」はGoogleスライドに、三つの場面設定による教育活動毎の自己への気付きを蓄積していくものであるが、その際プログラム内の写真を貼り付けておくことで、気付きを思い出せるよう工夫したい。また、「自分発見シート」は共有ドライブ上にアップロードしておき、教科担任や担任が生徒理解を深めたり、適時意図的な対話を行ったりできるようにしておく。特別活動の授業の中で作成する「自分イメージマップ」はJamboardを使用する。これは現時点で認識している「自分」をキーワードや単語で付箋入力でき、書字の負担軽減や時間短縮を図ることができる。さらに自分や他者の考えを可視化したり、付箋を移動したりできるため、自分の思考を整理し自己理解へつなげることをねらうものである。

また、他者の考えを想像させたり、自分の行動の理由を考えさせたりする等、生徒の自己内対話が充実するような問いかけを行いたい。その際、肢体不自由のある生徒は身体の動きに困難があることから、体験不足のまま言葉や知識を習得していることが少なくないことを考慮して、生徒が自分に対して感じたことや気付いたことなどを言語化、明確化していくことを意識したい。

3 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義を理解できる。	自己への気付きを深め、自己の成長に関する課題を見出すことができる。	他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとすることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
障害を含めて自己理解し、自己の生活上の課題の改善に向けてなるべく少ない支援で日常生活に取り組むことの意義を理解している。	「自分イメージマップ」を作成しながら、他者との関わりや教師の意図的な対話や言葉掛けにより、自己への気付きを深め、自己の成長に関する課題を見出している。	他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、強みを生かしたり、弱みを受け入れ適切な支援を求めたりといった具体的な解決策を話し合い主体的に取り組もうとしている。

5 指導計画（全3時間）

	指導計画	時数	指導内容（学習内容）	評価の観点		
				知	思	主
第1時	自分のことを見つめよう① 肯定的な自己理解	1	「自分イメージマップ」 （1回目） 自己のリフレーミング 自分発見プログラムについて	○	○	
第2時	自分のことを見つめよう② 自他理解	1	「自分発見シート」発表 他者理解を通じた自己理解 「自分イメージマップ」 （2回目）	○	○	○
第3時	自分のことを見つめよう③ 話合いを基にした自己理解	1	「自分発見シート」発表 「自分イメージマップ」 （3回目） 自己の生活上の課題に対する話 合い		○	○

6 授業案

6月17日（月）自分のことを見つめよう① 肯定的な自己理解 本時の目標：「自分発見プログラム」の目標達成への見通しや、自分を知ることへの意欲をもつことができる。	
学習活動	指導上の留意点
1 あいさつ	
2 学習の目標と流れ	
3 自分イメージマップ作成 ・現時点での自分に対する認識を「自分イメージマップ」に記入する。 （個人活動） ・対話しながら、気付いた新しい自分も「自分イメージマップ」に記入する。 （集団活動）	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介のつもりで、思い付く全ての自分を記入するよう伝える。 教師も一緒に、「自分イメージマップ」を作成し、それぞれの生徒に気付かせたい項目（強み自己理解、弱み自己理解、弱み自己理解（障害理解））を入れておく。 事前アンケートを基に、意図的な対話や言葉掛けを行う。
4 発表 ・自分のPCを使って発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例） 「最初自分の全てを書くよう言ったのに、どんどん増えていったのはどうして？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分のことは実はよく分かっていないこと、日々変化することに気付かせる。
5 リフレーミングや受容 ・「自分イメージマップ」の否定的事項を肯定的に捉える。 ・短所や苦手なことの対応策を考えることで受容する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師が自分のことを例を出し、リフレーミングや苦手なことへの対応策を紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例） 「先生、よく物を忘れるんだけどどうしたらいいかな？」「〇〇さんだったら、どうする？」</p> </div>
6 自分発見プログラムの説明 ・「自分発見プログラム」の目的や内容の説明を聞く。 ・「自分発見シート」について操作しながら理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 谷川俊太郎の詩「自分をはぐくむ」の一節を紹介し、「自分を発見し続けたら、成長することができるのか」という問いを投げかける。 実際にPCを操作してクラスルームのGoogleスライドの使い方を体験する。
7 ふりかえり	
8 あいさつ	

7月2日（火） 自分のことを見つめよう② 自他理解

本時の目標：「自分発見プログラム」前半を振り返り、自分について多様な見方で捉え直すことができる。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 あいさつ</p> <p>2 学習の目標と流れ</p> <p>3 「自分発見プログラム」前半の振り返りの発表 ・「自分発見シート」や「自分イメージマップ」を基に発見した自分について発表する。</p> <p>・発表を聞く際は、その場面での他者の気持ちや行動について考え、自分と比較する。</p> <p>4 「自分イメージマップ」作成 ・活動3を踏まえて、現時点での自分に対する認識を「自分イメージマップ」に表す。（個人活動）</p> <p>・互いに見せ合って、気づきを話し合う。（集団活動）</p> <p>5 ふりかえり</p> <p>6 あいさつ</p>	<p>意図的な対話（例）</p> <p>自立活動→「車椅子から立って座ることができるようになってどんな気持ち？」「自分の障害のことが人に説明できると何かいいことがあるのかな？」</p> <p>校外学習→「担任のコメントを見ると、できることが沢山見付かったんだね。なぜ、できたと思う？」</p> <p>・他者の考えを想像させたり、行動の理由を考えさせたりすることで、自己内対話を充実させる。</p> <p>・前回の「自分イメージマップ」と比較して、成長したことや、否定的側面であっても、新しい自分を発見できたことを教師が評価する。</p> <p>・1回目と比較しやすいよう、色を変えたり付箋を移動したりして、思考を整理させる。</p>

7月12日（木）自分のことを見つめよう③ 話し合いを基にした自己理解
 本時の目標：自分の生活上の課題に気づき解決策を話し合うことができる。

学習活動	指導上の留意点
1 あいさつ	
2 学習の目標と流れ	
3 「自分発見プログラム」後半の振り返りの発表 ・「自分発見シート」を基に発見した自分について発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例）</p> <p>「自分発見シートの文末が「～しないといけない自分に気付いた」に変わってきているのはどうして？」</p> <p>「～しないままだったら、どんな自分になるの？」</p> </div>
4 「自分イメージマップ」作成	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分発見シート」を参考にしながら現時点の自分について付箋に入力させる。今の自分に合わない付箋は削除してもよいこととする。
5 自分の課題を確認し解決策を話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意図的な対話（例）</p> <p>「たくさんの自分を発見したけど、〇〇さんはどんな自分になりたいの？」</p> <p>「そのために、この中の自分をどうしたらよさそう？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、生徒の思考を整理するために、必要に応じて発言をJamboardに入力して可視化する。
6 ふりかえり ・今日の授業の目標への振り返りと、自分発見プログラム全体を終えての感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・谷川俊太郎の詩「自分をはぐくむ」を全文紹介し、今後も新しい自分を発見し続けることの大切さに気付かせる。
7 あいさつ	

②教師が意図した対話の実際（一部）

- ・・・教師の発言や意図を示す。
- ・・・生徒の発言や行動、変容を示す。

第1時 「自分発見プログラム」はじめ

はじめー①

6月17日（月） 特別活動	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>■「自己紹介のつもりでお互い自分の好きなことや、いい所、苦手なこと全部「自分イメージマップ」に書こう！」 （作成後、共有する）</p> <p>■「先生は、こんな風にしてみました。」</p> <p>■「先生は初めて会う人とも、割と平気で話ができます。Aさんは？」</p> <p>①「できません。自分とは逆だ。」</p> <p>■「じゃあ、それも書いておこう！」 （教師の「自分イメージマップ」を見て、気付いた新しい自分を「自分イメージマップ」に加えていく。）</p> <p>■「<u>最初、自分のこと全てを書くように言ったのに、どんどん増えていったのはどうして？</u>」</p> <p>①「えー？人のこと知って、自分のことに気付いたから。」</p> <p>（「自分イメージマップ」共有後）</p> <p>■「<u>先生、よく物を忘れるんだけどどうしたらいいかな？</u>」</p> <p>①「私も忘れます。だからメモ取ります！でも書くより打つ方が速いから、説明会の時もPC持って行ってメモしました！」 （「自分イメージマップ」に発見した新しい自分を加えていく。）</p> <p>■「へー。すごいね、それAさんのいいところだね。苦手なことがあっても、対応策があれば大丈夫なんだね。」</p>	<p>■自己理解段階表の項目（強み自己理解、弱み自己理解、弱み自己理解（障害理解））に気付かせたいので、自身の作成した「自分イメージマップ」には、「初めて会う人とでも話ができる」「デジタルのものは覚えられない」「すぐ忘れる」を記入した。</p> <p>■まだまだ自分のことについて、知らないことがあることに気付かせたい。</p> <p>①授業後の休み時間に「自分のこと分からないから、友だちとか先生に教えてもらおうかな」という発言があった。</p> <p>■自身の苦手なことに対してアドバイスを求めることで、苦手なことでも策を講じながら対応することができていることに気付かせたい。</p> <p>①この場面以外にも複数の先生方から褒められたことを思い出し、苦手なことに対してどうすればよいかの対応策が分かっていることも、自分のよさだと認識するようになった。</p>

「自分発見プログラム」前半

前半－①

6月24日（月）オンライン職場実習	
「自分発見シート」に生徒が記入したことと、それに対する授業者のコメント	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>①「スプレッドシートを上手く使えるか、心配だったけど、メモをしながら頑張った。初めてやることでも、頑張ることができる自分に気付いた。」</p> <p>■「実習が始まると、とても集中していましたね。メモを取ったり、声に出して返事をしたり、<u>分からないことは「分かりません」と伝えたりできていました。</u>」</p>	<p>■初めての实習でお腹が痛いと言えつつも、頑張れたことを称賛すると共に、本人が気付いていない、できたことの具体を認識させたい。</p>
	<p>②下線部について、翌日の実習で実践する姿が見られ、「自分発見シート」の記述にも見られた。（前半－②参照）</p>

前半－②

6月25日（火）オンライン職場実習	
「自分発見シート」に生徒が記入したことと、それに対する授業者のコメント	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>①「質問するときは、ドキドキしたけど思い切って質問ができる自分に気付いた。」</p> <p>■「頑張って質問して、粘り強く取り組んでいましたね。次は、<u>昨日指摘された質問の仕方を考えてみましょう。</u>」</p>	<p>■前日伝えたことはできているので、次の段階として、実習先の方から指摘された課題に向き合わせたい。</p>
	<p>②下線部について、翌日の実習で改善する姿は見られなかった。</p>

前半－③

6月26日（水）オンライン職場実習	
「自分発見シート」に生徒が記入したことと、それに対する授業者のコメント	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>①「3日間とも、集中できる自分と頑張って質問できる自分を発見した。スロープを上がる時、少しずつ体力がついている自分に気付いた。」</p> <p>■「スロープの上りやトイレなど、一人でできることも増えましたね。<u>実習先の方から、質問の仕方や見直しについてアドバイスをいただきました。しっかり取り組んでいきましょう。</u>」</p>	<p>■前日の意図的な対話では、生徒の変容が見られなかったため、本人が受け入れやすい言葉に変えて再度アプローチする。</p>
	<p>②後日、他の教員が別の場面で、同様のアプローチを行ったが、生徒に実習先の方から指摘された課題を受け入れている姿は見られなかった。</p>

第2時 「自分発見プログラム」中

中-①

7月2日(火) 特別活動	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>■「<u>職場実習の後、「課題なんてない方がいい」って言った時、どんな気持ちだったか?</u>」</p> <p>①「<u>実習で精一杯だったから、言ったことを忘れてます。</u>」</p> <p>■「<u>そっか。じゃあ、実習先の方は質問の仕方とか、見直しとか、何でAさんに言ったのかな?</u>」</p> <p>①「・・・・・・・・・・・・・・・・。」</p> <p>■「<u>嫌がらせ?(笑)</u>」</p> <p>①「・・・・・・・・ではない。」</p> <p>■「<u>道岡先生もね、いつも指導主事の先生から「もっとこうの方がいいんじゃないですか?」って言われるんよねー。</u>」</p> <p>①「<u>えー!</u>」</p> <p>■「<u>何でそんなこと言うのかな?</u>」</p> <p>①「<u>もっと道岡先生らしくやってほしいから」「もっと先生っぽく」「もっとしっかり(笑)」</u></p> <p>■「<u>そっか。先生にもっとよくなってほしいのか!じゃあ、実習先の方も、もしかしたらAさんにもっとよくなってほしくて言ったのかな?</u>」</p> <p>①「<u>あー。何か気持ちが楽になった</u>」</p>	<p>■<u>実習先の方から指摘された課題に対する、自分の気持ちに向き合わせたい。</u></p> <p>■<u>立場を「自分」から「実習先の方」に切り替えることで、実習先の方から指摘された課題に向き合わせたい。</u></p> <p>■<u>立場を切り替えても、課題に向き合う姿が見られないので、自身の経験について想像させることで、課題を伝える側の心情に気付かせたい。</u></p> <p>①<u>授業の振り返りで、「実習先の方の気持ちを考えるのが難しかったけど、分からなかったこと(何で課題を言ったのか)が分かった。」との発言があった。</u></p>

「自分発見プログラム」後半

後半－①

7月3日（水）自立活動	
授業中の生徒と授業担当者との対話	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>■「<u>職場実習の評価表には、記入漏れがあると書かれていたから、見直しも大事だね。</u>」</p> <p>④「えー！がんばったのに。」</p> <p>■「<u>空欄があったんじゃないかな？</u>」</p> <p>④「<u>実習先の人に聞いたら、分からない所は空欄でいいと言ったのに！何か納得いかない！</u>」</p>	<p>■本時は、職場実習中に明らかとなった腰痛への対処の仕方について学ぶことを目的としているが、前日の特別活動で、実習先の方が課題を指摘した理由について理解できた姿が見られたので、導入場面において課題に向き合う機会を作りたい。</p> <p>④実習先の方から指摘されたことを、自分の課題として受け入れられない姿が見られた。</p> <p>④宿題として記入した「自分発見シート」には「職場実習は大変で忙しかったけど、ちゃんと見直しをしないといけない自分に気付いた。」との記述があった。</p>

後半－②

7月8日（月）自立活動	
授業中の生徒と授業担当者との対話	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>■（タオル体操をしながら）「<u>先生は右手は背中のおもてまで届くけど、左は届かないな。</u>」</p> <p>④「私は右手は背中の上まで届く！髪の毛も掴める。左は難しい。」</p>	<p>■左手よりも、右手が動かしやすいことに気付かせたい。</p> <p>④宿題として記入した「自分発見シート」には「自分の体について、あんまり考えたことがなかったけど、今の体のことが分かる自分に気付いた。」との記述があった。</p>

後半－③

7月12日（金）保健	
授業中の生徒と授業担当者との対話	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>■「ここに答えが書いてあるプリントと、自分で書くプリントがあります。障害のことも含めて、自分で考えて選んでください。どっちが正解とかありません。」</p> <p>④「げ、まじか・・・自分で書きます。」</p> <p>■「<u>Bさんは、難しい方を選ぶんだね。挑戦するあなたは素敵です。</u>」</p> <p>④「へ？」</p>	<p>■1回目の「自分イメージマップ」に「面倒くさがり」という記述があったにも関わらず、難しい方のプリントを選んだことを称賛することで、強み自己理解として気付かせたい。</p> <p>④3時間目の特別活動の「自分イメージマップ」には「難しい方を選ぶ」との記述があった。</p>

第3時 「自分発見プログラム」 終わり

終わりー①

7月12日（金）特別活動	
教師と生徒の対話	教師の意図と生徒の変容
<p>■ 「Aさんの自分発見シートの文末が、今まで「～できる自分に気付いた」って書いてたけど「<u>～しないといけない自分に気付いた</u>」って変化してきているのは何で？」</p> <p>① 「えー？自分でもびっくりしました。」</p> <p>■ 「<u>じゃ、見直しをしないといけない自分って？</u>どういうこと？」</p> <p>① 「え？」</p> <p>「その・・・実習で資料を作った時に自分の中では、見直しをやってたつもりだったけど・・・落ちていることがあって・・・見直しをしないといけないって。」</p> <p>■ 「<u>自分で見直しをしないといけないって気付いたんだ！すごい。</u>」</p> <p>① 「見直しが足りなかったから！」</p> <p>(中略)</p> <p>■ (「自分イメージマップ」をお互いに見せ合いながら) 「<u>Bさん、保健の授業で、ご飯食べる時一人だったらさみしいって話してたよね？</u>」</p> <p>② 「あっ、そっか。」</p> <p>① 「Bさん、さみしがりやなんじゃ。」</p> <p>■ 「<u>一人でご飯食べたらさみしくない？Aさん？</u>」</p> <p>① 「私もさみしいです。」</p> <p>(中略)</p> <p>■ 「<u>沢山の自分を発見して、今の自分ってどうですか？Aさん？</u>」</p> <p>① 「何だろ、え？何だろ・・・難しい。でも、自分ってがんばってるかなって。」</p> <p>② (拍手)</p> <p>■ 「<u>じゃ、Bさんは？自分のこと知って、どう思った？</u>」</p> <p>② 「どう？うーん・・・色んなことに気付いた。」</p> <p>■ 「例えば？」</p>	<p>■ 複数の「自分発見シート」で文末の表現の変化が見られたので、自分の向き合い方が変化していることに気付かせたい。</p> <p>■ 実習先の方から指摘されたことに、自分の課題として受け入れているのか確認したい。</p> <p>① 実習先の方からの指摘を、自分の課題として受け入れ、向き合う姿が見られた。</p> <p>■ 実習先の方から指摘されたことを、自分の課題として受け入れたことを称賛することで、これからの自分の生き方において大切なことであることに気付かせたい。</p> <p>(中略)</p> <p>■ 自己への気付きの場面を思い出させたい。</p> <p>② 授業の場面を思い出して「自分イメージマップ」に「さみしがりや」と記入した。</p> <p>■ AがBについて理解したことを受け、Aが自己理解できるきっかけとさせたい。</p> <p>① 一人でご飯を食べたらさみしいという自分に気づき、「自分イメージマップ」に「さみしがりや」と記入した。</p> <p>(中略)</p> <p>■ 「自分発見プログラム」を通して得られた気づきを、言語化、明確化させることで、成長を実感させたい。</p> <p>① 「自分発見プログラム」の最初では、「自分のことは、忙しくて考えたことがない。」と発言していたが、沢山の自分を発見し、「自分ってがんばってる」という、自己を肯定的に捉える発言が見られた。</p>

⑤ 「意外と得意なこと多い。」

■ 「そうそう。できることも多いね。じゃ、改めて自分の「自分イメージマップ」見て、こんな自分どうですか？」

⑤ 「すごい！」

⑤ 「生徒事前アンケート結果」では、強み自己理解の数値が低かったが、得意なことやできることに気づき、自己を肯定的に捉える発言が見られた。